月刊
立川と語ろう 立川に生きよう
えくてびあん
9
〈EKUTEBIAN VOL.7 SEPTEMBER 1990・EKUTEBIAN〉
まい あーと■革工
「月明」by 大坪重周

キャンプファイヤーに炎をあげて

夏休み最初の夜は校庭で子どもたちがキャンプをする。そんな小学校が市内にある。飯ごう炊さん、キャンプファイアー、テント張り。校庭はみごとに〝キャンプ村〟だ。燃えあがる炎を囲んで、親も、子も、先生も、夜が更けるまで一つになって歌い、踊る。子どもたちの楽しみとして続いてきた校庭キャンプ、今やすっかり夏の〝風物詩〟である。

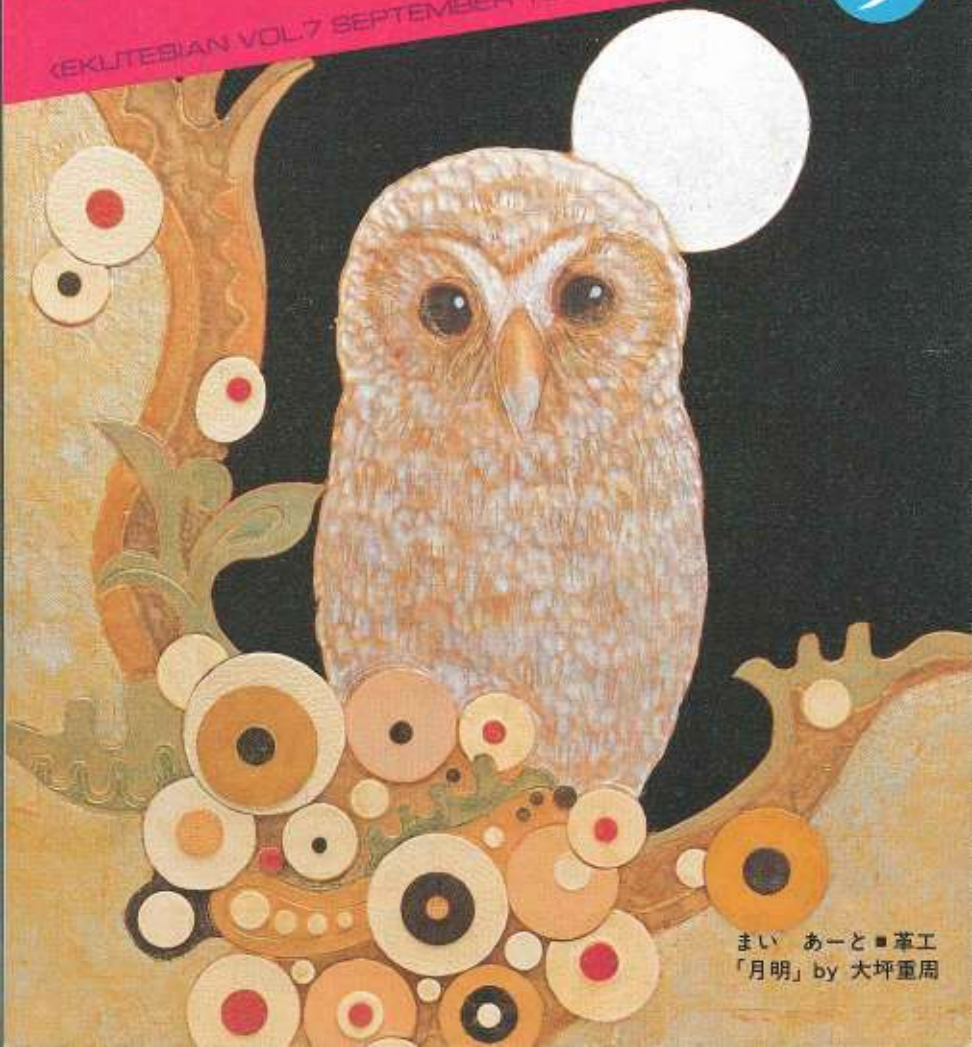
みんなで作ったご飯にカレー。校庭で食べれば味は格別。（二小）

この辺かな、エイッ！（[illegible]）

テントもようやく張り終えて、静かになった校庭。でも、なかなか寝つかれそうもない……。（二小）

親子で練習したダンスを軽やかに。（二小）

とりどりに咲く花火に、時も忘れて。（多摩川小）

点火式。火の神に扮するはＰＴＡ会長。（二小）

国際交流、盛ん

東西ベルリンの壁がとり外されるなど、世界は刻々と"自由化"へと向かっているが、その根底にはやはり、人と人との「心の交流」があろう。ここ立川市でも、市民のレベルで、あるいは個人のレベルで「国際交流」はますます盛んになって、それぞれの世界を彩りはじめてきた。

中央公民館でおこなわれている「戦争を語りつぐ集い」は今年で10年を数える。10周年を記念して在日韓国・朝鮮の人々とのふれあいを深める集いが8月5日に行なわれ、百名に近い参加者でにぎわった。「戦争を語りつぐ実行委員会」ではこの10年、国際的な見地から講座を設けるほか、映画や写真展などで文化面を、そして「集い」ではコーラスやフィールドワーク、料理実習など幅ひろい活動が目立つ。

料理によって交流をはかっているのは、西砂公民館で行なわれたベトナム料理実習も同様の意図をもっているようだ。7月8日、講師をつとめたグエン・ティ・ジャンさんはベトナム料理のベテランで、本国でも教えていたが、2年前に来日してからも国情の違いからくる困難を乗り越えてユニークな指導で評価を得てきている。この日のメニューは「ベトナム風汁そば」「生春巻」「ココナッツミルク」「豚の耳の生ハム」などと豊富。

受講生のなかには男性もまじり、また、料理以外にもジャンさんとの会話からベトナム理解に役立てようと試みる人も。

国際的な奉仕活動をつづけているソロプチミストの立川支部では以前から米国のラホヤ・クラブとの交流が深く、この夏3名の方を招いて日本の料理やお茶、風物の花火をあげ、夏の情緒をこころゆくまで愉しんだ。

国際交流の面で、収穫の多い立川の夏だったようだ。

▼日本情緒に囲まれて、ご満悦のラホヤグラブ(アメリカ)からの3人。

▲民族楽器の音色を通して、在日韓国朝鮮の人々と交流をはかってゆく。

▲ジャンさん（左端）の指導よろしきを得て、ベトナム料理の講習会が。

ぐるり立川 ⑥

アメリカが少年、少女の憧れの的だったのは、一九五〇年代までだろうか。六〇年代になれば、ベトナム戦争が激化し、反戦運動は学生運動になり、反戦はやがて圧戦になり、夢のカリフォルニアは夏休みで遊びに行く程度の近さになった。

アメリカが輝いていたその頃、鼻（ハナミズ）をたらした子供達はテレビのホームドラマに出てくる物分りのいい長身の父親に憧れた。パパという響きも素敵だった。芝生とブラインドのしゃれたお家、踊り場のある階段に電子レンジ、毛足の長い犬が足元にじゃれつく――。北口、各社のモデルハウスが建ち並ぶサンシャイン住宅展示場を訪ねると、そんな強かったアメリカを思い出させる。マンションや兎小屋、ますます一戸建てが手の届かなくなる都会にあって、こんな堂々とした家を建てられる人がどれくらいいるのだろうか。そんな疑問も起きるが、まずは夢のような家を楽しめばいい。住宅展示場を囲んで、丸く柔らかな光を投げかける街路灯がある。アメリカが強くて頼もしかった頃、日本もまた、明日に向かって希望に燃えていた。東京オリンピックよりも前の話だ。（東畠弘子）

ことわざ問答 ⑥

漢字一字挿入せよ

▼紺屋の明後日　●者の只今

▼せかせか貧乏　ゆっくり●者

9月2日(日)
「立川市総合防災訓練」
場所：西砂町5-42 空地
時間：AM9:00
詳しくは ☎(23)2111内268へ

9月13日(木)
「敬老大会」
会場：市民会館
時間：AM9:30〜
詳しくは ☎(23)2111内538へ

表紙は語る

まい あーと■革工
「月明」by 大坪重周

太陽が少し大きくなったのでは、と思わせる熱暑が過ぎていよいよ9月。まだまだ厳しい残暑が続きそうではあるが、涼やかな秋の夜に想いをこめて、今月の表紙を選んでみた。

作品は染織した革を張り重ねて図案を描く「レザークラフト」と呼ばれるもので、絵画や布染織では表現しにくい立体的な造形美もあらわせるのを特徴としている。

今年で卒寿（91歳）を迎えた作者の大坪重周先生は、長く日展の参与を務め、日本レザークラフト協会を主宰されるなど、革工芸界の重鎮。この分野が日本であまり知られてなかった頃から、革の素材的価値に着目され、大学で染織技術の指導をするかたわら、作品を出展しつづけてきたという。

「私は広がりがある円のデザインが好きなんです」と語られるように、小さな円と縄文土器の造形を組み合わせて描かれた作品は、はるか遠い古代からのメッセージを伝えているようにも感じられる。

立川・トピックス

創立50周年に向けて 四小でバザー開催

去る7月22日、市立第四小学校（富士見四丁目）でバザーが開かれた。日用雑貨コーナーあり、模擬店あり、で大人も子どもも大いに楽しんだが、これは今年創立50周年を迎える同校が、その記念事業の費用にあてるために企画したもの。「学校は地域のものですから、多くの方に記念事業に参加していただこう、と。出品して下さる方、買って下さる方、いろんな形で協力していただいて」と教頭先生。地域の歴史を子どもたちに教える副読本の作成など、今、四小は地域と一体になって活動中だ。

ミス立川に 立川治美さんが

ミス立川コンテスト（立川まつり実行委員会主催、東京新聞後援）で見事に栄冠を勝ち得たのは立川治美さん。

コンテストは7月28日、フロム中武の屋上で開かれ、38名のお嬢さんが次々に登場、7名の審査員が眼を光らせるなか、10名にしぼられ、さらにミス立川、準ミス立川が選ばれた。

準ミスには久保田かおりさんと、渕上佳子さんに決定。なお、ミス立川の立川治美さんは、ミス東京に向けて、その覇を競うことになる。

立川クイズ

立川市が誕生したのは昭和15年12月1日、今年で50年になります。生れたばかりの立川市の臨時の市長代理は、当時の「立川町長」だった板谷信一郎氏。正式に市長が決まったのは16年2月のことですが、初代・小川孝喜市長はどのようにして選ばれたのでしょうか。①内務大臣による指名②市民による選挙③市会議員による選挙

【8月号の答え】

小学校として東京都で最も古く121年の歴史を誇る立川市立第一小学校。明治3年3月、柴崎村の普済寺の一部や境内にある心源庵を教場にして、地元の有志により「郷学校」として設立されました（「立川市史」より）。郷学校というのは、寺小屋より規模が大きく、公共的な性格の強い、民間の私的教育機関です。明治5年まで続きましたが、教育にかける当時の立川人の熱意がしのばれます。

真如苑だより

立秋は8月8日。この日を境に「暑中見舞い」が「残暑見舞い」に替わります。夏のさなかに秋が立つと云われてもピンときませんでした。

真如苑では残暑がどんなに厳しくても、皆さまのご来苑をお待ち申し上げております。

■日時　9月12日(水) 午後2時〜4時

■御本尊、真如宝物館をはじめとして映画など盛りだくさんの用意がしてございます。

■立川市民(成人)に限らせて頂きます。

■お申し込みは「えくてびあん・コンパニオン」(本誌を手渡してくれた人)へ。

ことわざ問答 答

紺屋(こうや)の明後日(あさって)　医者の只今

引き受ける時は口先だけ調子よく、約束の期日があてにならないことのたとえ。

せかせか貧之　ゆっくり長者

やたらにアクセク働くだけが能ではないことの戒め。「のらり果報」とも云われる。

東風

工房はあいかわらず「風鈴」と「しぶうちわ」で夏をすごすのだなどと、のんきなことを云っておりましたが、今年の猛暑にはチト参りました。しかし、暑さのなかに「小さな秋」が生れて、夏の大群が背中をみせながら退陣する後ろ姿はさすがに立派で「堂々たる夏」であったと賞賛の声を送りたいほどです◆立川市は「夏の贈物」をたくさん頂戴しましたが、失ったもの、亡くなられた方への思いも走ります。7月9日、中野藤吾先生が急逝されたことは大きな打撃でした。「立川の知性」と呼ぶにふさわしい先生に教えを乞わなければだめですよ。『ベスト立川人展』にはやく登場して頂きなさい、と三田鶴吉さんから督促されていましたが、中野先生はいつも「そういう晴れがましい所は私の任ではないから」とご遠慮がちでした◆高松公民館で中野先生の、立川の歴史講座を拝聴したことがありました。私たちにも解るように平易にお話をすすめられ、栄町にお住いの先生はご自分の庭を語るように「立川」を愛おしく語られ、自分の街を愛することの大切さを教えられたのでした◆先生は遺書のようにして『街の片隅から』（けやき出版刊）一巻をのこして逝かれました。先生の「多摩が東京並みになってはいけない」というひと言は野武士のような強さがあります◆えくてびあん　吹きもどさるる　野分かな。

（編集）小川知子　神山清子　鴨川理　山田恵子　中村裕里　半沢正弘　原田悦子
（写真）天野武男　板橋一明　吉田義治　スタジオ269　枝川一巳　本多修

月刊えくてびあん 第74号
平成二年九月一日発行
発行所　えくてびあん編集工房
東京都立川市富士見町2-20-15
パークビューハイツ501 〒190
電話　〇四二五(28)0082
FAX　〇四二五(28)1297
編集人　立井啓介
発行人　沖野嘉男
印刷所　(株)大廣社

五日市の萩原タケさん
立川発
カルチャートレイン
半日ほどの「小さな旅」へ出てみませんか。そこには思いがけなく自然が息づいていたり、懐かしい「この人」に会えたり。
ロンドンより帰国
35歳の萩原タケ
当時の五日市の市街
大正9年、日本初のナイチンゲール記章受章者となった萩原タケ。
江戸中期には木炭の取引きをもって地回り経済圏の一環を形成していた。
深沢家土蔵
五日市駅
萩原タケ生家跡
広徳寺
拝島
立川駅
国立
八王子
MEMO:川魚がとてもおいしい。バーベキュー可
詳しく知りたい方、五日市町郷土館
☎ 0425-96-4069へどうぞ
「五日市憲法草案」が発見された深沢家の土蔵。ここに新時代への志が生きていた。
五日市駅から徒歩25分。山あいにある室町桃山時代の広徳寺の山門。